新たな時代へ前進を

2026年への展望
安全最優先と次代への組織づくり

JR西日本の倉坂昇治社長とJR西労組・羽野敦之中央執行委員長が、新年にあたり抱負を語った。羽野委員長は、安全最優先の取り組みと組織強化、女性専従の育成を挙げ、魅力ある会社づくりを進める考えを示した。また、大阪・関西万博の成功や中期経営計画の成果を踏まえ、労使の努力に対し会社が「一時金で応えた点にも触れ、今後も期待に応えたいとした。倉坂社長は「安全」「挑戦」「仲間の幸せ」を軸に信頼され続ける企業を目指すと述べた。（文中は敬称略）

JR西労組 羽野委員長

1．はじめに　安全最優先と組織強化

【中央執行委員長・社長就任にあたって抱負や取り組みたいことをお聞かせください】

羽野　7月に開催した第37回定期中央本部大会で上村前委員長の後任として執行委員長に選出され、本当に身の引き締まる思いです。

まずは、大会で提起した方針を新執行部が一丸となって実行していきますが、中でも、「安全」には、これまで以上に拘りをもって取り組みを進めていきたいと思います。

「ABC運動（当たり前のことを、バカにせず、ちゃんとする）」のさらなる浸透に加え、いつも申し上げていますが、安全を守ることは「面倒くさくて、難しい」ことであるということも伝えていきたいと考えています。

そして、世話役活動をはじめとした組織のさらなる強化と次代への継承を進めていくうえで、新たな専従役員づくり、とりわけ女性の専従役員の育成も必要です。現在、中央本部の女性専従もいなくなりましたし、次期、改選時には女性専従役員を迎え入れられるようにしたいと考えています。

さらに、良い労働組合は良い会社を作るといわれるように、「活き活きと笑顔で働くことのできる魅力ある会社づくり」を健全な労使関係のもとで進めていきたいと考えています。

倉坂　JR西日本グループが「私たちの志」を羅針盤に、これまで培ってきた経験と信頼を大切にしながら、変化の激しい時代にあっても、お客様や社会から信頼され、選ばれ続ける存在であり続けたいと考えています。

そのため、私が特に大切にしたいと考えるポイントは次の3つです。

1つ目が『鉄道の「安全」を変わらぬ使命として、信頼を築き上げていく』ということ、2つ目が『「共創」と「挑戦」で、社会課題を解決し、提供価値を高めていく』ということ、3つ目が「共に働く仲間とその家族の幸せを大切にしていく」ということです。

変化の激しい今日のような経営環境においては、多様な意見の中から、未来につながる最善だと思われる方策を、スピード感をもって実行していくことが重要です。私自身もそうした考えを大切にしながら、社員の皆さんの声に耳を傾け、その力を信じて共に進んでいきたいと思います。大阪・関西万博への取り組みはまさにそうした社員の皆さんの創意と情熱と努力の賜物であったと受け止めています。

万博後も、国内外の多くのお客様に私たちの事業に魅力を感じていただけるよう、ともに挑戦を続けていきたいと考えています。

羽野　挑戦という観点でいえば、JR西労組もコロナ禍による業績悪化で取り組みが休止したままとなっていた賃金昇進制度の見直し、定年延長と65歳以降の働き方についての議論を再開したいですね。定年を65歳とすれば、60歳までとそれ以降の賃金カーブのあり方や第2基本給を含めた退職金制度の見直し、シニア・65歳以降の働き方なども、賃金昇進制度とセットで議論していかなければなりません。私の任期中に結論が出ないかもしれませんが、議論をスタートさせる、最初の一歩を踏み出していきたいと思います。

そして、常々申し上げていることですが、私が会社を退職する時にJR西日本で働いて本当に良かったと思えるような「魅力のある会社」にしていきたいですね。

2．昨年を振り返って　万博輸送の完遂と賃上げ・一時金にも

【昨年は、「大阪・関西万博」が開催されましたが、改めて、昨年2025年1年間の振り返りをお聞かせください】

羽野　2024年は、1月1日に石川県能登地方でマグニチュード7・6の地震が発生し甚大な被害が発生、翌日1月2日には羽田空港滑走路で日本航空機と海上保安庁機が衝突し炎上するといった年明けだったことを考えると、2025年は本当に穏やかな年明けでした。

2025春闘は、物価上昇等により組合員の実質賃金が減少し、組合員の生活は厳しく、24春闘で光が当たらなかった間接部門、医療職の改善を強く求め、さらには一律のベアにこだわって、過去最高額となる12,200円を獲得することができ、基準昇給を含め6％を超える賃上げは、連合平均を大きく上回る結果を引き出すことが出来ました。

また、2025年は、JR西日本の信頼と信用、社員の誇りを一瞬で失った福知山線列車事故から20年を迎えましたが、私たちにとって決して節目はなく、あらためて事故を反省し、その上で教訓として、「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2027」の実践を進め、「世界一安全な鉄道会社」を目指す決意をしました。

大阪・関西万博については、鉄道、バス共に大きなトラブルもなく万博輸送を完遂できたことに対しては、組合員の皆さんに感謝申し上げたいと思います。

また、路面電車が広島の新駅ビルminamoaの2階へ直接乗り入れましたが、JR・広電ともにご利用が増えており、新たなスポットとして注目されています。

そして、11月には、大阪・関西万博に加え、今年は中期経営計画2025の最終年度であり、その目標の達成が見込まれることから、この間の私たちの頑張りに対する「一時金」を要求し、会社はその私たちの声に応えていただきましたことは、本当に感謝申し上げたいと思います。次は、私たちが会社の期待に応えなければならないと考えています。

倉坂　昨年一年を振り返りますと、安全の確保に向けた取り組みのもと、鉄道のご利用が堅調に推移するとともに、大阪駅周辺開発の一環としての「うめきたグリーンプレイス」の開業、新しい広島駅ビル「minamoa」の開業や路面電車の乗り入れなど、鉄道とあわせたまちづくりのプロジェクトが花開きました。また、新たにコード決済サービス「Wesmo!」を開始するなど、地域・社会とのつながりを進化させ、未来につながる成長の礎を築くことができたと考えています。

【大阪・関西万博についてはどうですか】

倉坂　大阪・関西万博については、約半年間にわたって開催されましたが、様々な事態を想定した備えを整えて、安全・安定輸送を完遂し、運輸事業者としての使命を果たすことができました。

また、オフィシャルストアの展開では、JR西日本グループならではの商品をご提供したほか、大阪ヘルスケアパビリオンへのカラダ測定ポッドの提供や会場内外での様々なイベントなどを通じて、来場者の皆様の心が動くおもてなしに貢献できたのではないかと考えています。万博期間中に培った想像力と創造力、そして社内外の皆様との共想・連携による価値創造の力は、私どもにとって大きなレガシーとなりました。

羽野　そうですね、万博輸送では安全安定輸送を完遂させ、開幕にあたっては地域との連携を強め、物販といった関連事業をはじめ、JR西日本グループの組合員が一体となって、本当に大きな力を発揮し、成功に導いていただきました。

特に、西バスによる万博輸送では、運転士が不足する中で本当に頑張っていただき、無事故で完遂いただいたことには、本当に感謝申し上げたいと思います。

そして、大阪駅などのアンテナ↖

JR西日本

西日本旅客鉄道株式会社
表取締役社長　倉坂　昇治

化レク・
井　聖二